

林業技術センター
普及班便り
(第39回)

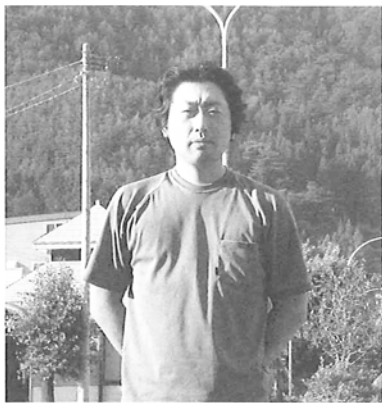
いわての林業人18

はじめに

今月の普及班便りでは、「岩泉まつたけアドヴァイザー」の一員として、岩泉町でマツタケ発生環境の整備に取り組み佐々木和宏さん、工藤仁さんをご紹介します。

「岩泉まつたけアドヴァイザー」

岩泉町のマツタケ産業の振興を目的として、地域の林の生態学的特徴、マツタケの生理生態や、環境整備、採り方、選別、輸送の各方法などに精通した人に与えられた資格です。以前、佐々木さんは、旧岩泉まつたけ研究所（吉村文彦所長）の研究員として、マツタケの生態や栽培の研究に励んでいました。また、工藤さんは岩泉町森林組合でマツタケをはじめとする特用林産物販売の業務を担当していました。お二人ともに、研究所主宰の講習を受講して認定を受け、その後は講習会等で指導にあ



佐々木 和宏さん

つたっています。マツタケ発生環境整備
マツタケが発生しているアカマツ林では、広葉樹の除伐や、腐植の除去などの作業を行うことにより、新たにシロが作られたり、今出ているシロからの発生量を増やすことが期待できます。佐々木さんは、アドヴァイザーの知識を実践して、ご自宅の山を手入れしており、「マツタケが出ている山なので、シロの広がる方向を予想しながら、環境を急激に変えないように注意して作業した。良い物、大きい物を採りたい。」と語



工藤 仁さん

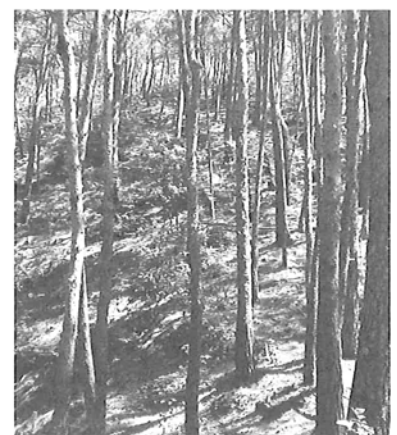
ります。また、同じく手入れに関わる工藤さんも、「山に無理を掛けず、長く採るようにしたい。」と語ります。町内には、他にも個人で環境整備を行って効果を挙げている方も居るとのことです。研究所の教えが根付いているようでした。

山作りイベントへの参加

岩泉町では今年度から、商工会の主催によりマツタケのブランド化に取り組みんでいます（7ページ参照）。この一環として、「まつたけ山つくり隊」や一般客による環境整備が行われますが、お二人とも他のアドヴァイザーの方々と共に作業の指導にあたり、「来てくれる方々には、楽しみながら山作りに関わって貰うとともに、マツタケの出ている環境を見て、知って貰いたい。」と、意欲的です。また、アドヴァイザーが集まって指導するのは久しぶりのこと、お二人も行事を楽しみにしているようでした。

これからの活動について

イベントで整備した山について、佐々木さんは、「どこにシロがあったかを把握し、腰を据えて整備を継続していきたい」と語ります。一方で、「かつては研究所主宰の講習会



など、アドヴァイザーが集まって話す機会があった。今回のイベントに機会に、アドヴァイザー間での情報交換を活発化させたい。また、環境整備には行政の支援も必要。」と希望を語ります。さらに、お二人とも「まつたけマイスター」に認定されており、品質の確保にも心を砕いています。宇霊羅山をバックに、「環境の整備とルール作りによって、岩泉町のマツタケ生産は、まだまだ伸びる。」と語るお二人の言葉が、印象的でした。

おわりに

他県も羨むアカマツ林を有する岩泉町にとって、お二人を初めとする「岩泉まつたけアドヴァイザー」は、力強い味方なのではないでしょうか。

林業技術センター普及班

019(698)1337